

ヨハネによる福音書 十三章二十一〜三十節

13 21 イエスはこう話し終えると、心を騒がせ、断言された。「はつきり言っておく。あなたがたのうち一人がわたしを裏切ろうとしている。」22 弟子たちは、だれについて言っておられるのか察しかねて、顔を見合わせた。23 イエスのすぐ隣には、弟子たちの一人で、イエスの愛しておられた者が食事の席に着いていた。24 シモン・ペトロはこの弟子に、だれについて言っておられるのかと尋ねるように合図した。25 その弟子が、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、それはだれのことですか」と言うと、26 イエスは、「わたしがパン切れを浸して与えるのがその人だ」と答えられた。それから、パン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダにお与えになった。27 ユダがパン切れを受け取ると、サタンが彼の中に入った。そこでイエスは、「しよんとしていることを、今すぐしなさい」と彼に言われた。28 座に着いていた者はだれも、なぜユダにこう言われたのか分からなかった。29 ある者は、ユダが金入れを預かっていたので、「祭りに必要な物を買いなさい」とか、貧しい人に何か施すようにと、イエスが言われたのだと思っていた。30 ユダはパン切れを受け取ると、すぐ出て行った。夜であった。